

## 高校生の脱原発アンケート

この秋、都内の某都立高校の文化祭で行なわれた原発についてのアンケートから――。「日本の原発では大事故は起こらない」という電力会社、政府の弁に対しては、全体の7割近くが「信頼できない」と解答。

「一定レベル以下の放射性廃棄物を一般のごみ（産業廃棄物）と同様に扱うこと（86年5月国会で法改正、基準値は未決定）についてどう思うか」には女生徒の8割、男子生徒の6割が「どんなに低いレベルでもやめておいた方がいい」と答え、「廃棄物はどうしたらよいか」には「現存の技術では処理できない」が6割だった。

そして「原子力発電所はこれからどうしたらいいと思うか」に対しては「現状にとどめる」が45%「止めた方がいい」が20%「減らしていく方がいい」が18%「増やしていく方がいい」が5%、その他が10%という結果だった。

頭では原発の危険性はある程度わかっているけれども、具体的に今の現状を変えていくのはおっくう…といった「現代的日本の高校生像」というものを感じられなくもないアンケート結果だった。

このアンケートを行なった高校一年生の女の子、綾子ちゃんは次のように述べている。

「とにかく少しでも知ってもらいたいと思って、文化祭の展示の用意をしました。実態をあまり知らないから、不安を持っているのに意見を持っていない人が多いのではないかと感じたからです。しかし

時間も要領も人も力も足りなくて、知らせたかったことの半分も見せられず、悔しさが残りました。今の高校生は、諦めている人もいなくはありませんが、原発についてはかなり関心が高いです。このアンケートでは、年が上がるにつれてずいぶんしっかりしていますし、私の高校はいつでもかなり自由なことができるので、絶対にあきらめないで行動していきます。まだだったら、身近な高校生と話してみてください。」

今回は、12月18日に行なわれる、神奈川の高校生脱原発グループ（原発やめちゃお会）と東電との「話し合い」のレポートをお届けしたいと思います。



## 脱原発移動資料館

4トトラックに原発に関する資料や写真パネル、その他ビデオやバッジ、Tシャツ等を積み込んで、この冬に北海道・泊原発前からスタートする予定の「脱原発移動資料館」が、一口オーナーを募集している。原発推進側が金にモノを言わせてマスコミでの宣伝にやっきになっている今、想像力をこらした非暴力直接行動の一環として、トラックに必要なモノをぜんぶ載せて、日本中を走り回ろうという楽しいアイデアだ。反原発の集会は

もちろん、公民館や団地・学校の近くの空き地などでも店を開くとか。約1000万円の予算を集めるため、一口1万円のオーナー会員を募集している他、情報集めでも協力しよう。

連絡先■北海道江別市東野橋本町4-17  
修学荘 ☎011-383-7425

郵便振替口座■小樽9-39159  
「脱原発移動資料館」

## 6月の参院選をにらみ みどりのネットワーク旗揚げへ

原発や環境破壊の問題、その他あらゆる問題が必ずといっていいほどぶつかるのが政治だ。現在のいわゆる政治家達の醜態を見ては、政治嫌いが増えるのも分からなくはないが、政治を避けては社会のエコロジカルな変革は望むべくもない。そこで89年6月の参院選を積極的に利用して、「みどり」に象徴されるエコロジカルな世界をもっと沢山の人々に知ってもらい、変革への機運を高めようという計画がある。

これは日本みどりの連合と日本みどりの党が中心となって、ネットワークづくりを進めているもので、現在は参加者・協力者を募集しながら、共同選挙綱領を作っているところだ。第一次原案の中には、原発と核の廃絶、環境問題に全力で取り組むこと、農薬・添加物他有害物質の強力な規制などを初めとして、暮らしから医療、福祉、教育、経済、労働、そして国際関係に及ぶ多方面のアイデアが盛り込まれている。

6月の選挙には、新しい一つの政治団体を組織して、共同で取り組みたいとのことで、反原発やエコロジー志向の団体・個人に呼びかけている。このネットワークは呼び掛け文などの趣旨に賛同し、運動分担金（1万円程度の予定）を納めた人によって構成されるそうなので、共鳴する人は資料を請求してほしい。

反原発で百万人の署名が集まる時代なら、国会議員の何人かは出てもおかしくないはず。議会だけしか見えないのはどうしようもないが、議会も自分の視野に入れて遊んでみれば、思いがけない展開もありそうだ。この動きは、また続報をお伝えする予定なので、注目を！

問合せ先■「日本みどりの連合」  
〒113 東京都文京区本駒込1-20-7  
☎942-9593



# 六ヶ所村レポート

PHOTO: Yosuke Shibata



核燃の出来る地には沼や湿地帯が多く地盤が不安定だ

1988年10月14日、ウラン濃縮工場着工。

私にとって2度目の六ヶ所村行は、菜の花が咲き乱れる頃で、ここが過去20年以上も国策によってメチャクチャにされ、そして今は核燃で村中が揺れ動いていることなどまったく感じ取れなかった。しかし、国家石油備蓄基地や核燃サイクル予定地である造成された大地を見てしまうと、その思いは風のごとく吹き飛んでしまった。みごとに舗装された道路は、人影もなくすれちがう車もまばらであった。弥栄平には人家はなく、そのかわりに巨大な51基の石油タンクが並んでいた。その横の草むらに、この地の開拓を記した石碑が静かに建っている。ここにはもう開拓の面影はない。

### ●新住区千歳平、A住区・B住区

巨大開発当時、幸畑、上弥栄、弥栄平、新納屋などの移転者に用意された新住区は、東京の分譲住宅とまったく同じ造りで、区画整理された家並みは、六ヶ所村村内にあるとは思われない感じである。当時「にわか成金」「補償御殿」と言われ、土地代金を手にした「にわか成金」は村内外で次々と問題を起していく。金が飛びかい、かなりひどい状態であったと聞く。1974年5月頃、千歳平でついに殺人事件まで起きる。大人達のしぐさは子供達までも巻き込んでいく。子供達の間で金が飛びかい、あげくの果てに盗みまで始まったという。

1969年、佐藤内閣は「新全国総合開発計画」を閣議決定。この発表と同時に六ヶ所村は、不動産ブローカー達に土地をたくみに買い占められていく。

1972年、青森県は「むつ小川原開発第一次計画」を決定。

1973年、六ヶ所村において開発の賛否をかけた村長選挙がおこなわれる。反対派寺下村長は、促進派候補に敗れ、以後反対運動は急速に衰退していく。

1974年、「開発公社」に開発予定地内の民有地60%以上が買収される。用地買収、順調に進行。

1975年、上弥栄小学校閉校。開拓によって

生まれたこの小学校は、開発により25年の短い歴史を閉じた。

1978年8月、鷹架部落閉村、300年の歴史を閉じる。10月、弥栄平部落閉村、43年間の開拓の歴史を閉じる。

開発予定地内に残る大きな部落は新納屋だけとなる。

そして今、新納屋部落、幸畑、弥栄平、上弥栄、大石平などの地には、造成された大地と国家石油備蓄基地があり、人影はない。

「むつ小川原巨大開発」は、六ヶ所村の歴史、大地、人間を次々と野獣のごとく喰いつくし、そして今「核燃サイクル基地・六ヶ所村」と、核の嵐が大地を襲いだしている。